

平成 30 年度 釧路専門学校 出前・体験授業一覧

こども環境科による保育・幼児教育に関する講座

No	講座名	ジャンル	講座概要
01	家族とは	家庭支援論	家族や夫婦と子どもという「典型的」な家族がイメージされやすいが、夫婦のみの家族や母子家庭・父子家庭、同性愛カップルなど、「家族」が多様化していることに気付くとともに、家族の機能が変化していることを学ぶ。
02	いじめを考える	教育社会学	中学生・高校生の被害体験率が高い“からかい”を例に、いじめとは何かを解説するとともに、いじめの要素・明度を解説する。後半は、アクティビによるティを通して、いじめを許容する空間がいかなるものか模擬体験する。
03	子どもの発達と子どもの人権	保育	子どもを大人の都合にあわせようとするのではなく、次世代を担う子どもたちを、権利の主体であることを大切に考える。
04	クレヨン特技技法・うす塗りで作品制作	表現・造形	幼稚園や保育園で必ず使われているクレヨンの、ちょっと変わった技法を紹介。基本の技法をこどもの年齢に合わせてどう展開していくのか、一緒に考えながら実際に制作してみます。
05	クレヨン特技技法・厚塗りで作品制作	表現・造形	クレヨンの技法として一番有名な「スクラッチ」の紹介。ただ体験するだけでなく、子どもと一緒に制作するときにはどこに気を付けるのかを考えながら作品を作ります。
06	こどもと楽しむ工作・割りばしを使って	表現・工作	身近な素材を使って、簡単に遊べる工作の紹介をします。自分で作ると壊れた時に自分で直せる。子どもがいろいろなものの仕組みに気づく、最初の体験に関わるのも保育の仕事の魅力です。
07	こどもと楽しむ工作・飛ぶ工作	表現・工作	身近な素材で飛ぶおもちゃを作ります。作って調整して、うまくできるとよく飛んで面白いので、子どもは頑張って練習してくれます。楽しいことで指先や眼との協応の発達を促すこともできるんですね。
08	「数」の基礎を考える	教育方法学	数や量については、小学校とのつながりも踏まえておく必要があります。数詞等の指導といきがちですが、日常のことばでの“並んで”・“手をつないで”などにも数学の基礎が隠されています。そのことを考えてみたいと思います。

介護環境科による高齢者理解・介護技術に関する講座

No	講座名	ジャンル	講座概要
01	認知症の人の支援	認知症の理解	認知症の人の世界、それは私たちがまだ見ぬ世界です。認知症になると、何もできなくなってしまうの？認知症の人はどのように感じ、どのように悩んでいるの？私たちにも、認知症の人のためにできる何かがあるのです。その「何か」を一緒に探してみましょう。
02	らくらく着脱体験	生活支援技術	いつもは何気なく行っている着脱動作も身体の動きに制限が出てくると思うようにできなくなるものです。「右手が不自由になったらどうやって上着を着る？」実は、ちょっとした工夫で楽に着脱できるんです。その工夫をお教えしましょう。
03	みんなが心地良くなるコミュニケーションとは	コミュニケーション技術	相手と会話をして成り立つのがコミュニケーション、と思っていまませんか？実は、コミュニケーションには会話の他に、もっと大切なものがあるんです。その大切なものを習得すると、みんなが心地良くいられる空間が広がります。さあ、あなたも心地良いコミュニケーションを図ってみませんか？
04	車いす、触って押して乗ってみよう！	生活支援技術	高齢者、障がい者の皆さんにとって、車いすは移動する際の「足」代わりになるものです。 普段は使用しない車いすを実際に手に取り、押して介助したり乗ったりして、車いすを利用する方々の気持ちに少し近づいてみましょう。
05	高齢者、障がい者の疑似体験	生活支援技術	高齢者の筋力・視力の低下、障がい者の身体の不自由さは健康な人には理解できないものです。 この授業では四肢の制限、体幹のアンバランス、白内障アイマスクなど疑似体験セットを使用してその方たちの日常の不自由さを体験していきます。
06	ワクワク・ドキドキ アクティビティケア	アクティビティケア	介護が必要になったからといって何もできないわけではありません。いつまでも楽しい時間を過ごしたい、と思うのは皆同じです。アクティビティケアは、一人一人に寄り添ったケアをデザインをしながら、その人の心が豊かになるアクティビティを見つけていくものです。さあ、ワクワク・ドキドキしてみましょう。
07	高齢者に楽しく食事をとってもらうには	生活支援技術	高齢者の特徴を伝え、自分自身の食事の意味付けを合わせて考えます。 食事に関する介助方法や環境整備について、参加型で実際に補助具などを使って食事をロールプレイしてみたり、高齢者の食事の注意点をお話しして、高齢者が安全に楽しく食事をするために必要な嚥下体操なども体験してもらいます。
08	介護と介助について	生活支援技術	介助とは、その方のできないところを把握し、お手伝いをする。相手が望むところの介助を心がけ、自立への手助けを行なう。利用者さんが自分のできることは持続し、いつの時も積極的に望み、生きがいにつなげる。 利用者さん、介護者さん共に明るい笑顔で生活ができる。